

ひまわり

No.75
発行日
発行所

平成29年1月31日
葛飾区保護司会
葛飾区南水元2-13-1
水元学び交流館内2階
TEL5876-3435

葛飾区の安全・安心のために ―再犯防止・改善更生と多機関連携―

東京保護観察所長 幸島 聡



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

葛飾区保護司会の皆様におかれましては、御家族と共に健やかに新たな年を迎えられたことと存じます。旧年中皆様の御尽力によりまして、葛飾区における更生保護事業が着実に実施され、安全・安心な葛飾区のために大きな御貢献をなされました。改めて、御礼申し上げますと共に、本年も更生保護事業を一層推進し、安全・安心な葛飾区づくりのために御尽力いただくようお願い申し上げます。

さて、現在、再犯防止は、政府の重要施策の一つとなっております。平成24年7月、全閣僚を構成員とする犯罪対策閣僚会議において「再犯防止に向けた総合対策」が決定されました。この総合対策に基づきまして、現在様々な施策が展開されています。

同総合対策の重点施策は、**①**対象者の特性に応じた指導及び支援の強化 **②**社会にお

ける「居場所」と「出番」を作る**③**再犯の実態や対策の効果等の調査・分析と効果的な対策の検討・実施 **④**広く国民に理解され、支えられた社会復帰支援の実現、という4つの柱から構成されています。

対象者に対する指導のみならず支援を強化するということが、社会の中に「居場所」と「出番」を作ること、国民の理解と具体的協力を実現するということが含まれています。従来、犯罪・非行対策というところ、起した事件に関心が向きがちですが、対象者の特性及び生活環境にも留意し「社会生活を営む一人の人間をどう支援していくか」という観点が重視されています。

昨年7月には、**薬物依存者・高年齢犯罪者等の再犯防止緊急対策**が犯罪対策閣僚会議で決定しました。右記総合対策の重点施策を踏まえ、刑事司法と地



域社会の狭間で、必要な支援を受けられないまま再犯に及ぶ者の存在に目を向け、特に、再犯するおそれが高い薬物依存者と高年齢犯罪者に対する緊急対策が示されています。

再犯事例を見ますと、再犯という最悪の結果に目が向きますが、いきなり再犯というよりも、日常生活が不安定となり、再び以前の生活に戻つてしまい、同種再犯に至るといった場合が少なくありません。言い換えますと、社会の中にいながら、孤立してしまふことが問題となります。

したがって、更生保護関係者は、住居、就労、福祉、教育、医療、保健等生活に不可欠な分野と連携した具体的な支援が求められていることを改めて認識しなければならぬと思います。多機関連携により、再犯防止・改善更生を推進することが求められています。

葛飾区保護司会におかれましても、多機関連携の推進につきまして格別の御尽力をいただいているところではあります。更なる推進をお願い申し上げます。

新年に向けて

葛飾区保護司会会長 岩田 敦子



新年明けましておめでとうござります。

平成28年度も残すところあと少しになり、おかげさまで今年度の行事並びに重点目標も順調に消化しつつあります。これも保護司の皆さまが協力しあつて活動されている賜と思ひ感謝申し上げます。成果も上がつているとの評価もいただいております。

保護司として、一番の大事なことは対象者と向き合うことです。次に観察官との連携を密にすることだと思ひます。保護司として、十分な活動をするためには、しっかりと研修をし、対象者との対応はそれぞれによつて違います。基本となるのが観察官への報告と相談です。

保護司一人ひとりが更生保護に対する意識と任命された職務を全うしてほしいと思つています。今年も、更生保護事業推進へのご理解とご協力をよろしくお願ひします。

社会を明るくする運動 公開講座の取り組み

真島 文雄

葛飾区青少年育成金町地区委員会では、7月の「社会を明るくする運動」の一環として、葛飾区保護司会と共催で、毎年地域の方々や小・中学校の保護者、子供たちを対象に「公開講座」を行っていています。今年で第六回になります。「青少年の非行問題」「今どきの子育て」「夢にチャレンジ」等々テーマはアンケートの要望を取り入れ講演会を重ねてきました。

会場は毎年金町地区センターのホールで開催していますが、今年は7月に選挙があり使用が出来なかつたので、9月10日に行いました。

第一部は、金町中学校オーケストラ部の演奏。第二部は、家系研究所主管研究員小川敬氏による「あなたが創る家族の未来」あなたが変わればす

べてが変わる」の講演でした。

地区委員会黒沢会長の開会の言葉につづき、青木区長、塩澤教育長、保護司会岩田会長のご挨拶をいただき、御出席して下さった保護司福島金町分区長、各小・中学校の校長を紹介しました。当日の参加人数は満席の二〇八名でした。

第一部の金町中学校オーケストラ部演奏の参加者の感想（アンケート回答より）

本日はとても素敵な時間がありました。ありがとうございました。大変感動しました。子供たちが一つの同じ目標に向っている姿に胸が熱くなりました。指導して下さいました先生方、保護者の力添えの成果ではないでしょうか。皆で創りあげたすばらしい演奏でした。

第二部の小川氏の講演はスライドを映し、分りやすく内容は次のようなものでした。

親子の関係は人間関係の基礎になるだけでなく、その後の家族関係に大きな影響を及ぼします。

子育て、夫婦のあり方、親との確執、兄弟間の問題など家族心理学では、親子の情動問題を達成して、はじめて人は自立するものとみています。しかし、子供がどの程度自立できるかは親のまた親、つまり祖父母との関係に左右されます。さらに祖父母の自立レベルも、そのまた親というように多世代にまたがったものなのです。

特に問題をかかえている子供に対しては、親自身がかつて持っていることと深く関係しているのです、それに気づき「親のあなたが変わることがすべてが変わるきっかけ」になります。

小川氏の講演を自分の家族に当てはめ、親子の関係、夫婦の関係がどのように重要かを学ぶことが出来ました。

その他、多くの講演に対する好評の声が寄せられました。金町地区委員会では「ためになって、楽しめる講座」を目標に地域の皆さんや学校関係、子供たちと一緒に今後も取り組んでいきます。



金町中学校 オークストラ部 演奏

優しく・厳しく

清田 清

私は以前から、多くの先輩の方々から保護司をすすめられたのですが色々な役をやっていたのでお断りしていました。その後、青少年委員の任期が終るのを待っていったかのように保護司を受けるようになった。少しでも地域の役に立つのならと軽い気持ちで受けました。私は不器用で経験も乏しく真面目な人間です。何でも分からないまま指導頂きながら多くの対象者と切目なく向き合ってきました。中には、家族が時間も関係なく何かにつけ相談して来る事もありました。それぞれ対象者は様々な事情があると思いますが、対象者に嫌われ観察官から担当を変わってほしいと言われる事もありました。対象者の多くは家庭環境にめぐまれず、家族共々指導したことも数多くありました。また暴走族の少年が最初に来訪した時、頭髮が真黄色だったのが解除の時には、更生し真黒な髪になった時は、嬉しかったです。そしてその後、街中で多くの本人や家族に出会った時、「先生〇〇です、その節はお世話になりました。今は真面目に働いています。」

と聞くと保護司をやつて来て良かったなと振り返って見て嬉しくなります。一度は事件を起こした人も二度とは起こしてほしく無いと思いつつながら寄り添って来ました。同じ人で二度担当した人はいないのが何よりの誇りです。嬉しいです。

私の経験では対象者には、時には優しく、時には厳しくきつく対処してほしいと思っています。今

協力雇用主として

(保護司M)

私が「協力雇用主制度」を知るときかけになったのは、部での活動を通してでした。会社経営していることもあり、少しは力になれるのではないかとの思いからでした。また、この制度を知る以前から、対象者の採用をした経験があったからでもあります。

ハローワーク墨田は、当社の管轄にあり、Aさんから「紹介したい方がいるのですが：実は：」と対象者を紹介頂きました。数名の方を面接し採用につなげるも、出

は薬物・ネット・スマホ等の犯罪者が増えていたので難しい対応が迫られて大変でしようが、気を引き締めて適切に対処してほしいと思います。

私は何も出来ないまま多くの先輩と仲間の皆様に、ご指導とご協力頂き感謝の気持ちで一杯です。本当に有難うございました。

勤日に来ない、数日で辞める、給料日まで在籍するも給料日以降来なくなる、突然連絡が取れず消息不明になったかと思えば数か月後に再犯して検挙された(刑事が会社に訪問)などなど問題も様々。

いざ、協力雇用主となったものの、不安との葛藤に押しつぶされそうな自分もいました。万が一、社内でも問題や事件が起これば、会社存続に係るのではないだろうか。対象者であることが社内・社外に知れてしまったらどう対応したらいいのだろうか？守秘義務をどう取り扱えばいいのだろうか？職場環境に溶け込めるのだろうか？対人関係はうまくいくのだろうか？

うか？期限を区切って対応する対象者以上に、家族同様、組織で受け入れる覚悟と高いハードルがあつたことを思いおこします。

しかしながら、今では「葛藤が安心」に変化しつつあります。

今日まで約20名のご紹介、面接を繰り返して、現在2名の対象者が在籍しております。35歳のW君(勤続2年10カ月)は、アルバイトとして採用、一度は退職の意思を示したものの、今では職場環境にもなじみ、欠かせない社員の一人となつて頑張っています。26歳のH君(勤続4年2カ月)は、とても優秀かつ素直な好青年、総務部長、センター長からの評価も高く、信頼のおける社員の一人となつています。社明運動での楽器搬送にも、率先して協力してくれました。

今後とも彼らを、陰ながら見守り続けたいと思います。

私にできることは、スタートラインに立たせてあげること。そこから一步を踏み出すのは本人であり、私たちがすべきことは、対象者であるからと目線を変えることなく、しっかりと向き合うことだと思っております。人生の再スタートのお手伝いができることのきっかけに、今後もなりたいたいと思っております。

亀青分区自主研修会

「亀有警察署少年係と就労支援活動で連携」



平成26年12月に犯罪対策閣僚会議で、犯罪や非行からの立ち直りを国民全体で支える社会の構築を目指すと言ったことが宣言されました。

「再犯（再非行）防止」には、住居と収入の確保により安定した生活を送れることが一番大切な事と思います。

収入の確保は「職」。職に就くこと（就かせる）が重要であります。私たちが担当している保護観察対象者の中には、「職」に就く事を遵守事項で決められている人がいますが、自分に合った職・やりたい職が見つからない、ひとつの職が長く続かない等で職から離れてしまう保護観察対象者が見受けられます。ハローワークや協力雇用主等様々な社会資源等を活用し、その人に適した「職」が見つかるよう日々支援活動をしている状況かと思えます。

ええ警察が就労支援

平成28年2月、研修部で就労支援をテーマに研修が行われました。この研修会に、警視庁亀有警察署少年係長が参加され、同署で取り組んでいる就労支援活動についてお話がありました。「是非保護司の皆様もご相談ください」と言う朗報に、当分区で少年を担当しているT保護司が早速相談に伺い少年の希望する職に就く事が出来た。この事例紹介を受け、少年係長を講師にお招きし、就労支援活動の取り組みを共有・連携が出来ればとの思いで、自主研修会の開催に至りました。

自主研修会で連携を確認

少年係と保護司が就労支援活動で連携のきっかけが出来た経緯を事前資料にして作成、自主研修会の趣旨がより理解出来るように図りました。



事前資料表紙

「社会を明るくする運動強調月間」を一週間後に控えた平成28年6月24日、亀有警察署少年係長を講師にお招きした自主研修会を行いました。亀有警察署少年係の就労支援活動は、警視庁管内で一番大きな成果を上げている事を聞き、地元警察の更生保護への熱い思いを感じました。

係長の数々の体験談をお聞きし、頼れる父親・温かみのある父親のような人柄が、少年たちの心を動かし再犯防止に繋がっていると確信しました。

T保護司は、担当の少年に再犯をさせない為には、職に就かせるしかないと思ふにもする思いで係長に相談すると快く受け入れていただき、早速少年と面接、少年の希望を丁寧に聞いて、都立城東職業能力開発センター

やヤングハローワークに同行して無事希望の会社に就職が叶いました。その後も順調に仕事を続けていると言う嬉しい事例紹介が係長とT保護司から発表がされました。



自主研修会風景

むすびに

「人はみな、生かされて、生きていく」生きるマークの言葉のごとく、再犯（再非行）防止に、警察・保護司・ヤングハローワーク、それに協力雇用主それぞれの「力」が連携して、一人でも多くの対象者が職に就き、生活力向上と将来への大きな夢が持てれば、大きな喜びの生に繋がることでしょう。

（亀青分区 山崎博久）

葛飾区保護司会 管外研修

秋晴に恵まれ出発。今回初めての試み一つ目は、国営ひたち海浜公園内で昼食はバーベキュー。私達が散策し、みはらしの丘に咲く紅紫色コキアを見ている頃、役員さんが火を熾こし、途中で仕入れた魚肉等を焼いて振舞ってくれたサンマはとつても美味でした。その後、村松山虚空蔵尊参拝、常磐湯本温泉宿泊。次の日は、泣きそうな空の中出発。薄皮饅頭柏屋で一服、勿来の関見学、大津港松野屋で昼食。茨城就業支援センターでの視察後、今回初めての試み二つ目、水戸の観察官・保護司5名との交流会。水戸市保護司会副会長初め皆様貫禄が有り、お話上手で圧倒されました。昔担当した事例報告には大きな衝撃を受けました。反社会勢力から脱退して入墨を全て消し、自衛官を続け幹部にまで昇進したという事です。これ以上の更生は無いのではと。いつまでも、心に残る話でした。

(研修部長 小野千恵)

新小岩の地名と駅名

シリーズ
葛飾さんぽ⑫

「新小岩」の地名は昭和40年12月1日に下小松町の大部分と平井中町、奥戸新町の一部分が新住居表示として「新小岩」を名乗ることになりました。それ以前は現「新小岩」と呼ばれる大部分を、「下小松町」と表示していました。

小松の地名は、平安時代に駅津(こまつ)とも言われた事から、「小松」に成ったと言う説も有りまして、かなり昔からの地名と思われるます。

そして「上小松」・「下小松」に分かれたのは戦国時代ではないかと言われています。

奥戸村誌に永祿2年2月12日(一五五九年)の「北条分限帳」には、七拾貫九百五拾文・「葛西小松上下」と有ります。現在の地図で表しますと、総武線の

北側、東新小岩の大部分が「上小松」で、総武線の南側を「下小松」と称しました。

「下小松」の地名が「新小岩」に変更されたのは、総武線「新小岩駅」の「新小岩」を使用したものと考えます。

新小岩駅の開業は、昭和3年です。駅名については逸話が伝えられています。大正15年に今の小松橋の辺りに、新小岩信号所が開設されました。「下小松」に新駅が開設されると聞き、下小松の有志は駅名を、「小松駅」にして下さいと、陳情に行きましたが、時はすでに遅く「新小岩駅」で切符等手配済でした。小松駅は当時石川県に存在し、この駅名は断念しました。それでも「下小松駅」と改称して欲しいなら、費用として当時の金額で、10万円を負担するならと言われ、断念したとの事です。

そして新小岩駅開業から37年(昭和40年)後に、「下小松町」から「新小岩」に住居表示が変

更されました。

現在新小岩駅では南北自由通路工事が進められています。平成30年には、完成の予定です。駅の南広場・北広場それぞれ整備されつつあります。「新小岩」周辺の更なる発展を期待したいと思います。

(写真と文 倉谷恭平)

参考文献

新小岩第六自治会「新小岩第六自治会50年のあゆみ」
益子徳三著「新小岩史考」



工事中の新小岩駅

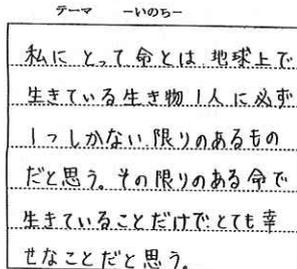
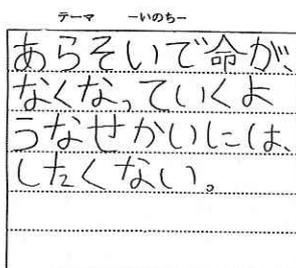
ハガキによるメッセージ委員会からの報告

ハガキによるメッセージは平成12年度より「社会を明るくする運動」の一環として始まりました。めまぐしく変化する社会環境や子供たちを取り巻く状況、また犯罪の凶悪化や低年齢化というような憂慮すべき状況を鑑み、子供たちが何を思い、何を考えているのか知りたいということから始めた活動も、本年度で十七回目となりました。

テーマは途中変わることもありましたが、保護司が関わる問題でもある「生」を子供たちに考えてもらうことも大事ということ。「いのち」というテーマで、区内小・中・高校に学校連携推進担当保護司を通じて六月頃ハガキを配布し、子供の素直な思いを書いてもらい、自由に投函してもらっています。

返信されたハガキは7月17日に行われた「かつしか区民の集い」で中間発表させていただきました。おかげさまで本年度は約三千通の返信をいただきました。毎年ハガキによるメッセージ

で送ってもらった内容を一部ではありますが、同学年の他の児童・生徒にも「いのち」に対する様々な思いや感じ方があることを知って欲しいと思い、全児童・生徒に配る学年毎のダイジェスト版と、全学年分を一冊にまとめた冊子版を各小・中・高校に学校連携推進担当保護司を通じて配布しております。また本編集にあたっては、子供たちの思いや考えをそのまま伝えることを第一と考え、原文のまま掲載しております。



東京拘置所 矯正展



第5回東京拘置所矯正展が10月1日(土)に開催されました。今年も大勢の参加者が正門に並んで開場を待ち望んでいました。9時30分に、歌手で法務省矯正支援官のMAXさんをゲストに迎え、青木克徳葛飾区長等とともに、テープカットで幕が開きました。

ステージでは綾瀬中学校の吹奏楽演奏や警察犬の模擬訓練、ゆるキャラの集合、祭囃子、和太鼓などの催し物がありました。また、広い会場一杯に種々な

ブースが設けられました。全国刑務所の作業製品の販売、震災復興支援各地からの特産品等の販売、消防署のレスキュー隊の救助演習、葛飾区役所の広報活動等々です。保護司会のブースでは、飲み物や封筒の販売、ゼリーすく



いやヨーヨー釣りのゲーム、風車づくり体験などを行いました。

肌寒い気候のため、飲み物の売れ行きが思わしくなく、苦勞しましたが、最終的には完売することができました。お子さま連れのお客さまが多く、親子で楽しい一時をすごしていました。

風車の材料は新小岩分區から提供していただき、作り方も子供の手でできるよう工夫されたものでした。我々大人が手助けすれば、子供は自分で作ったという思いをもつことができ、あつという間に用意した材料がなくなり、十二時前に閉店となりました。

出来上がった風車を手に、親子で「ありがとうございまして」と頭を下げて帰る後ろ姿からさわやかな風が吹いてくるようでした。なお、売り上げの一部で今年も拘置所に図書を寄贈しました。

分区分区

本田分区分区だより

本田分区分長 成澤 裕喜男



本田分区分区は葛飾区の西部に位置し、担当地区は立石、東立石、四つ木、東四つ木、宝町の一部で構成され、現在16名の分区分員が所属し活動しています。

区域内には、葛飾区役所、葛飾警察署、本田消防署、又立石・東立石・四つ木・東四つ木の4つの青少年育成地区委員会があり、15の小・中・高の学校が集まっている町です。

年間の活動と致しましては、分区分会6回(自主研修2回)役員会を2回開催しています。

4月3日には、かつしかさくら祭りに参加し、薬物撲滅運動、青少年の非行防止、犯罪予防活動を行っています。

七月は「社会を明るくする運動」が全国展開で行われています。

7月1日の駅頭広報、分区分区では、京成立石駅、四つ木駅にて、更生保護女性会・桐友会・

各青少年育成地区委員会の方々のご協力を頂き広報活動をし、その後立石地区委員会の方々と共に、ティッシュと団扇を配布し広報活動を致しました。

7月17日には、東立石社会を明るくする運動実行委員会主催の会にも参加し、近隣一帯をパレードしながら啓蒙活動を行いました。

今年度の自主研修は地元葛飾警察署のご協力で交通関係、防犯振り込め詐欺などの現状のご講演を頂き、今後の保護司活動に役立つ研修が受けられました。

保護司活動は、不幸にして、犯罪を犯した人達の更生の手助けをする役目があり、又犯罪予防活動もあります。

これからも分区分員同志協力し合い明るい社会を築き、安全・安心な町作りのために、なお一層努力していきたいと思っております。

平成28年度 第五ブロック保護司組織運営連絡協議会

10月27日(木)東武ホテルレバント東京にて「第五ブロック保護司組織運営連絡協議会」が開催されました。当番区は墨田区で足立・葛飾・江戸川・江東区の参加者は来賓を含め86名でした。

本年度の協議事項は「保護司の研鑽活動を考える」です。平成11年施行の保護司法の一部改正に伴い保護司の職務に関する研修が保護司会の任務の一つとして規定されました。

葛飾区の小野千恵氏は自主研修の企画立案の進め方や新任保護司及び経験年数が短い保護司に対し研鑽の場をどのように提供しているか発表しました。特にインターンシップを取り入れた話には、各区より質問が相次ぎました。次に八幡俊昭氏が演壇に立ち水元分区分会の研鑽の場として、28年間も続いている学校との連携事業の話をされ、更に葛飾区保護司会として行政からの依頼で各種協議会・連絡会・委員会等の協議員としての参画を説明した。

足立区は小学生・中学生の親子への啓蒙活動と子供を危険から守る講演会を開催。

江戸川区は自主研修等の企画立案の進め方について報告。

江東区は年一回分区分区輪番制で一泊研修旅行を計画実施している。

墨田区は施設研修の場が治安・矯正・経済・証券・司法・学校等の多分野にわたることを発表。

発表後に幸島東京保護観察所長の講評がありました。

今取り組んでいる様々な活動を次の世代に継げる事が大事です。保護司の新しい活動も目立ちます。昔は中学校との連携は難しかったが少しずつ開かれて、今では高校に迄広がりました。対象者への複数担当制の話はこれから協議をしていき、環境調整の場では二人制という検討もしてみます。更生保護事業をより一層充実させるため、色々と検討させて頂く事となります。

会務報告

〔人事の件〕

○新任保護司2名
平成28年9月1日付



松島 順子殿
(金町分区)



近藤 誠殿
(水元分区)

○退任保護司(任期満了)

平成28年8月31日付

温井 元起殿

平成28年12月21日付

清田 清殿

○平成28年11月2日付

5名の保護司が葛飾区自治
功労者(社会福祉功労)とし
て顕彰されました。

柏原慶純殿(奥戸分区)

晝間眞理子殿(金町分区)

柳田徳男殿(南綾瀬分区)

八幡俊昭殿(水元分区)

渡部利雄殿(南綾瀬分区)

平成28年度東京更生保護事業
関係において、次の保護司が顕
彰されました。



(敬称略)

法務大臣表彰

大島トヨ 小野千恵 清田 清

全国保護司連盟理事長表彰

森山晴男 渡部利雄

全国保護司連盟理事長表彰(内助功労)

岩田和夫

関東地方更生保護委員会委員長表彰

天羽徳実 荒巻昌世 大久保興一

佐伯次雄 菅原道生 松本 實

関東地方保護司連盟会長表彰

飯田 修 入江生夫 大熊健司

大滝清子 斉藤隆夫 土塩敬一

二瓶晃一 町田法博 和田邦子

東京保護観察所長表彰

秋家聡明 増田 充 松崎元子

山中雅仁

東京保護観察所長感謝状(内助功労)

中村国夫 森山和子

東京都保護司会連合会会長表彰

會田勝康 木村明洋 清水みゆき

白石正倫 山崎博久

薬物乱用防止葛飾大会

薬物乱用防止推進協議会は、
毎年「薬物乱用防止葛飾大会」
を開催、講演や、中学生による
薬物乱用防止啓発「ポスター・
標語」の募集を行ない、イベン
トや講座などで啓発活動を行っ
ている。

今年度は、平成28年11月11日、
健康プラザかつしか大ホールで
開催された。講演では、ライオ
ンズクラブの寺田義和氏が、薬
物乱用の実態を報告し、乱用防
止を強く呼びかけた。

◇28年度ポスター最優秀作品◇



←東金町中学校2年
杉江笑侑さん

◇28年度標語最優秀作品◇

新宿中学校2年
牛島つくしさん

薬物は
みんなも自分も
傷つける



編集後記

悲しいニュースを目にした。
いじめが原因で少年が自死し
た。父親談「なぜ自殺に追い込
まれなければならなかったの
か：。」

過労のために24才の女性が自
殺した。母親談「命より大事な
仕事はないはずなのに。」

通学路を登校中の小学生が
突っ込んできた車にひかれて死
亡した。近所の人談「規則を守っ
ている子供がなぜ死ななければ
ならないのか。」悲しい、実に悲
しい。

大切なものに順位をつけると
すれば、第一位は「いのち」である。
葛飾区保護司会は、毎年ハガ
キメッセージで「いのち」をテー
マに、小中高生に考えてもらっ
た活動をしている。「いのちを大切
にしていますか!!わたしたちのいの
ち、あなたのいのち。いのちにつ
いて、あなたの考えていること
をハガキで教えてください。」
続けていきたいと強く思う。